



Good News for Japan

とぎのこえ

平成二十九年二月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第二種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

キリストは内

藤井健次



二月三日は、「節分」として、神社仏閣や施設等でも「鬼は外、福は内」と叫びながら豆まきをしています。そして、まかれた豆を自分の年齢の数だけ食べる、厄除けになり、体が丈夫になると言われています。

一説に、平安時代、都を荒らす鞍馬山の鬼の目を大豆の炒り豆で打って退治した故事伝説がこの豆まきの由来、とあります。

さて、キリスト教の伝道者であったパウロは、自分の心の中に、「罪が住んでいる」と言いました。彼は告白しています。

「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです……わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしていないのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。」(ローマの信徒への手紙 7章15、19、20節)

パウロは、自分を苦しめ、悩まし、惨めにさせるのは、「鬼」ならぬ「罪」であると言っています。頭では、「正しいこと、してはならないこと、しなければならぬこと」がわかっているけれども、心が、善よりも悪に傾いて罪を犯してしまふ、と。これは、豆をまいても恵方巻を食べても解決できない、わたしたち人間

の内面にある、罪によるものです。

イエス・キリストは、弟子たちに言われました。

「口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。これが人を汚す。」(マタイによる福音書15章18、20節)

盗みをしなくても、他人の持ち物をうらやみ、欲しがる心。殺人までではないまでも、人を蔑み、侮辱し、憎む心。不倫、差別、痛ましい事件の背景には、人間の心の奥底に渦巻く罪深い性質があるのです。パウロは、この情けない、自分の罪ある姿に、つい悲痛な声をあげています。

「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。」(ローマの信徒への手紙7章24節)
この苦しみ、嘆き、惨めな姿から、わたしたちは解放されないのでしょうか。救われないのでしょうか。パウロは続けています。

「口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。これが人を汚す。」(マタイによる福音書15章18、20節)

「……愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」(ガラテヤの信徒への手紙5章22、23節)

季節の節目を迎えるこの時、「キリストは内」と、イエス様を救い主として信じ、心の内にお迎えすることを勧めます。そして、罪ある生活から解放され、イエス様のご性質をご自身の人生にいただくことができますよう、お祈りいたします。(救世軍士官(伝道者))

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

「幸福の手紙」 が出会いのきっかけ!



小出 道雄さん まり子さん

〈インタビュー〉

日曜日の朝、人も車も絶えない昼間から、喧噪の夜を越えた恵比寿の街は、しばし静かなひと時になります。住みたい街ランキングで常に上位に上がる東京・恵比寿にある救世軍渋谷小隊(教会にあたる)の前で、街頭生活をしている人々と親しく話す男性は、小出道雄さん。道雄さんと夫人のまり子さんにお話をうかがいました。

—今、渋谷小隊は新会館の完成間近。建て替え工事の間も街頭生活者への給食支援が続けられていますね。
まり子 この給食は、もともと日曜日に小隊を訪ねて来る街頭生活の方に、小暮さんという、一人の女性信徒が自分で作ったおにぎりを差し上げることから始ま



りました。その後、女性の小隊長(牧師にあたる)が赴任したのをきっかけに、時間を定めて応対することになり、人の少ない日曜朝の配布に変化していききました。工事の間も毎回、四、五十人の人が食事を受け取っています。
道雄 街頭生活の人たちも、地域の迷惑にならないようにゴミを拾い、配布の前よりきれいにしよう協力してくれているんですよ。

—お二人が信仰をもったのは、ご結婚の前ですか?
道雄 私は、父親が救世軍の兵士(信徒にあたる)でした。大正十一年、十六歳の時、新潟の書店で働いていた父は、店の前での救世軍の野戦(路傍伝道)をきっかけに、クリスチャンだった店主の勧めもあって、救世軍に行くようになりまし

た。ただ、結婚しては伴侶を次々に亡くし、男手ひとつでわたしたち子どもを育てている時もありました。その後、福島に移り住み、定年と同時に上京しま

した。私は父と一緒に、家から近かった西新井小隊に行きましたが、中学を卒業して住み込みで仕事を始めると、小隊から足が遠のいてしまい、夜学に通って一年もすると、酒もたばこも覚え、十八歳頃には、競輪競馬などの賭け事にも足を踏み入れて、「悪」と言われる様々なことに首を突っ込んでいました。夜学を卒業して二年くらいで住み込みの仕事を辞めて転職し、また救世軍に行き始めました。行き場を求めて、という感じです。そして、今までのことを悔い改めて、イエス様の赦しを求めてお祈りしました。でも、意志の弱かった私は、酒とたばこは止めることができませんでした。その後、二十三歳の時の大病をきっかけに、両方とも止める決心ができました。ちょうど職場が渋谷小隊の近くに移転したので、渋谷小隊に通うようになり、準備を表明している立場になりました。兵士には、四年後、結婚を機になりました。まり子 私の母方の祖母は子どもの頃、北海道開拓のため、山梨から家族で炭鉱の町夕張に移り住みました。祖母は熱心なクリスチャンでした。私の父は腕の利く大工でしたが、心臓が生まれつき弱く、姑にあたる祖母の誘いで、真剣に求道するようになりました。私も付き添って父と一緒に教会に行き、祈禱会、求道者会など、父が出る集まりには、横に座って参加していました。子ども心に、イエス様が私の罪のために十字架で死んでくださった、ということがわかりました。牧師先生の勧めもいただき、私が十五歳のイースターに、父と共に洗礼を受けました。父は、自分自身を神様に委ねた、という感じで、とても穏やかにしていたのを覚えています。

—お二人の出会いのきっかけをお聞かせくださいませんか?
道雄 文通なんです。「幸福の手紙」です。
まり子 当時、はやっていないでしょう。ある日、友人から一通の葉書が来て、そこに四人の住所が書いてあったんです。その人たちに葉書を送ると、幸福になる、と。その中の一人が主人でした。私は四人全員に葉書を書きました。主人の返事の葉書にはびつちり文字が書いてあったので、



「日本基督教会夕張教会では、祖母と父の記念会を守ってくださいっています。」(まり子)

また返事を書いたように思います。それは、私が十二歳、主人が十六歳の時のことです。**道雄** まり子からの葉書が、夕張炭鉱の写真の絵葉書だったので、私が中学まで福島県常磐の古川炭鉱にいたこともあり、返事を書く気になりました。それから文通が始まりました。まり子からの手紙が十通来たら一通返すような文通ですが、十年位続きました。**まり子** しばらくして、私が父と一緒に洗礼を受けたこと、父が亡くなったことなどを手紙に書いた時、初めて、主人も救世軍につながっていることを書いてきてくれました。それから信仰のことも書くようになったんです。

—文通から結婚へ、勇気がありますね。

道雄 まり子が二十歳になるのを待ち、二十五歳の時に、初めて夕張に会いに行きました。二十八歳で結婚。結婚式は、戦後間もなく建てられた木造の渋谷小隊会館でおこないました。小隊長に司式をし

ていただき、本当にお金がない中だったのに、周りの人に助けられて、立派な披露宴もできました。

まり子 母子家庭だったので母は私を離したくないと思っ

たでしょう。けれども、東京での結婚式が終わり、北海道に帰る時には、「二人で信仰を守っていきなさい」と言ってくれました。当時、北海道から東京まで二十四時間かかりました。母は、女学校時代、救世軍の札幌小隊に行っていたそうです。夫を早く亡くした母の苦労はどれほどだったか。四姉妹に愛を注ぎ、養ってくれたことに感謝していま

—結婚生活もご苦労が多かったのですね。

まり子 主人は、交通事故、急性腎盪炎、ぜんそく発作、脳梗塞、肺がんの



五年後の昭和五十年に主人が独立しました。借金して家電販売と電気工事の店舗を構え、働き通しの日々でした。仕事と子育てで日曜日の礼拝に出られない時も、小隊長や、信仰の先輩方がお祈りしてくださり、お手紙をくださったり、家まで訪ねてくださったり、支えて

感謝をささげます。御名に望みをおきます。あなたの慈しみに生きる人に対して恵み深いあなたの御名に」(詩編52編11節)

まり子 小隊長が、悩める人、疲れた人が集い、休める所であってほしいです。渋谷小隊が掲げているコンセプト(ビジョン)のとおりであるように、とお祈りしています。



「最後に、好きな聖書の言葉をお教へいただけますか？」**道雄** 詩編一〇〇編四、五節です。

「感謝の歌をうたつて主の門に進み 賛美の歌をうたつて主の庭に入れ。感謝をささげ、御名をたたえよ。主は恵み深く、慈しみはとこしえに 主の真実は代々に及ぶ。」

まり子 私は、「苦難の中から主を呼ぶ



←完成間近の新会館 (裏手の公園から)

※渋谷小隊コンセプト (ビジョン)
「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」
(マタイによる福音書6章33節)

- ① 聖書を基盤とした福音伝道
- ② 神の愛に動機づけられた奉仕
- ③ 賛美にあふれた主にある交わり



1970 (昭和45) 年、挙式

「あなたが計らってくださいませから」とこしえに、

手術(結果は奇跡的に良性)と、何度も青天の霹靂、頭が真っ白になり、震えが止まらない経験をしました。今も多少の後遺症がありますが、神様に守られて二人で信仰生活を送れることは本当に感謝です。聖書に、

「あなたを祈っています。自分子どもたちが信仰をもてるように祈っています。」**道雄** いよいよ新しい小隊会館が完成します。渋谷小隊長が、

クリトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。

□ キリスト教についてもっと知りたいです。

□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

裏、この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。



信仰の先輩、小暮さんと

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン)



世界をみつめて

〈バングラディシュ〉女性の雇用のために

1990年代半ばから、バングラディシュの救世軍では、人々が貧困から抜け出すために、女性の雇用創出を目的とした支援が進められています。手作り品を、救世軍の国際的なネットワークを用いて適正な価格で販売する働きは、最初、「サリーアン」と名付けられました。1997年、ノルウェーに最初の販売店が開店した頃より、デザインにもこだわり、販路と、制作の地域も数カ国に広がっていきました。当時、300人以上の、生活に困窮した女性、性産業に従事していた女性が、仕事を得ることができました。



2013年、名称は「Others」(他の人々)と変更され、この働きの使命である、「弱さを覚えている他の人々への配慮」という思いが明確にされました。



現在、1,600人の女性の大切な収入源となっています。この冬は、アメリカのレッドケトル募金(社会鍋に相当)の奉仕者がつけるエプロンの注文により、12人の女性を、3カ月雇用することができた、と報告されています。

〈日本〉各地の災害被災者支援

●熊本地震 2016年12月6日(火)、九州キリスト災害支援センター主催による熊本県益城町でのボランティアに参加しました。熊本、福岡を中心に、多くの牧師や信徒も加わっての支援でした。この日は、4日間にわたるクリスマスケーキプロジェクトの最終日に当たり、馬水仮設団地と安永仮設団地で、クリスマスケーキの戸別配布がおこなわれました。夜にはクリスマス会がおこなわれ、ボランティアを含め70人が集い、にぎやかな時を過ごしました。



●東日本大震災

○12月6日(火)、岩手県大船渡市にある非営利型一般社団法人「かたつむり」(就労継続支援B型事業所)で、震災以来毎年恒例となっているクリスマス会をおこないました。この集いに先立ち、仮設住宅で親しくなった被災者の方を、引越し先のアパートに訪ね、思い出や近況を語り合う時をもちました。

○12月22日(木)、福島県より東京・東雲に避難している方の自治会「東雲の会」が開催している「サロン」に参加し、クリスマス会を開催しました。救世軍金管バンドアンサンブルがクリスマスの曲を演奏し、集まった方々とクリスマスの歌や懐かしい唱歌などを歌い、楽しい時を過ごしました。その後の歓談の時にケーキを提供し、ぜんざいなどのおみやげもお渡ししました。



救世軍とは

プロテスタントのキリスト教会で、一八六五年に創立されました。本部はイギリス・ロンドンにあり、現在、世界百二十八の国と地域で活動しています。

創立者のウィリアム・ブースは、その人の一番必要としているものを提供しないで神の愛を伝えることはできない、と物心両面からの救いを目指しました。貧しい人々、悲惨な状況に置かれている女性や子ども、アルコールのために生活が破綻した人、災害被災者……などの必要に応え、問題を解決するために、ブースは様々な働きを興しました。それらはどれも緊急を要するものであることから、迅速に対応することができ、軍隊流の組織をとりました。信徒は酒を飲まない生活を守って、活動に参加しています。

日本においても、救世軍は機動力を発揮して様々な活動をしていきます。東日本大震災、広島土砂災害、関東・東北豪雨、また昨年の熊本地震などの被災地支援を、現地の関係機関と連絡を密に取り、被災者の方々と交流を重ねながら継続しておこなっています。現在、伝道の拠点である四十三の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、十九の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)での働きを通して、神の愛を伝えています。

社会鍋募金へのご協力

ありがとうございます

二〇一六年十二月、全国の主要都市でおこないました。東京地区では、十二月十日(三十一日)に銀座、渋谷、新宿、上野、池袋などでおこなわれた社会鍋募金に、一千二十八万三千六百四十四円(当期募金額)が寄せられました。全国の募金結果は追って報告いたします。

皆様から寄せられました寄付金は、国内外の緊急災害支援や街頭生活者支援、障がい者支援施設、保護家庭、一人暮らしの高齢者などへの支援に、役立たせていただいています。



札幌での社会鍋

☆救世軍社会鍋俳句コンテスト

募集内容…社会鍋を題材にした未発表作品
提出物…一人二句まで
応募方法…封書での郵送(ハガキは不可)

●ファックスでの送付
●救世軍ホームページ
●応募フォームから



応募資格…不問
費用…なし
締め切り…二〇一七年三月三十一日(消印有効)
賞…優秀賞一句、ほのぼの賞二句他
結果発表…「ときのかえ」五月十五日号、六月一日号紙上、公式ホームページ
選者…三浦喜代子氏(日本クリスチャン・ペンクラブ代表)、「ひまわり文章塾」主宰

寄他

著作権…応募作品の著作権は救世軍に帰属
送り先…〒101-0051
東京都千代田区神田神保町二ノ十七

救世軍本営

「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係
電話 〇三・二三三三・〇八八一
FAX 〇三・二三三三・二五八八

お問い合わせはこちらへ

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部四〇円(〒六〇円)
十五日号一部六〇円(〒六〇円)
クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(〒七〇円)
一年分(二六〇円)送料七五〇円
振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍
代表者 ケネス・メイナ
編集人 齋藤 恵子
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二ノ十七

電話 東京(03)二三三三・〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 図書印刷株式会社
図書印刷株式会社